

2024年5月12日

主題「貧しい人に告げられる福音」

ルカの福音書 7:18-23

序

それでは、今日もみことばから聞いていきましょう。それでは、18-19節をご覧ください。

1. ヨハネの告白

さて、ヨハネの弟子たちは、これらのことをすべてヨハネに報告した。すると、ヨハネは弟子たちの中から二人の者を呼んで、こう言づけて、主のもとに送り出した。「おいでになるはずの方は、あなたですか。それとも、ほかの方を待つべきでしょうか。」

前回の箇所にもあるように、イエスがなされたこと、イエスの語られたことば、このイエスにかかわる様々なことがユダヤ全土、周辺の地域一帯に広まっていたわけです。それだけ「イエス」という存在がもたらす影響力は大きく、人から人へとその話は伝えられていた。そして、そのイエスについての話は牢屋に投獄されているバプテスマのヨハネのもとにまで届いた、というのが今日の話の背景になります。

このバプテスマのヨハネという人物は、イエスが来られるための道備えをし、神の前に悔い改めることを求めた人物。このバプテスマのヨハネが投獄された理由をルカ 3:18-20 でこのように記されています。

このようにヨハネは、ほかにも多くのことを勧めながら、人々に福音を伝えた。しかし領主ヘロデは、兄弟の妻ヘロディアのことと、自分が行った悪事のすべてをヨハネに非難されたので、すべての悪事にもう一つ悪事を加え、ヨハネを牢に閉じ込めた。

彼は、神の前に誠実に、まっすぐに生きた。それゆえに領主の反感を買い、投獄されてしまったんです。そして、このあと彼はこのヘロデの指示のもと首を切られて死んでしまう。その前の出来事が、本日ともに開いているこの箇所であるわけです。今日の箇所を見ると分かりますが、このバプテスマのヨハネにも弟子がいた。その弟子たちがイエスのなさってきたこと、語られてきたことばをヨハネに伝えたわけです。それを聞いたヨハネは二人の弟子たちを呼び寄せてこう言づけるわけです。

「おいでになるはずの方は、あなたですか。それとも、ほかの方を待つべきでしょうか。」

そして、その伝言を託された弟子たちはイエスのところに行き、20節。

その人たちはみもとに来て言った。「私たちはバプテスマのヨハネから遣わされて、ここに参りました。『おいでになるはずの方は、あなたですか。それとも、ほかの方を待つべきでしょうか』と、ヨハネが申しております。」

このヨハネの伝言を聞いて、どのように思われたでしょうか。バプテスマのヨハネと言えば、罪の赦しに導く悔い改めのバプテスマを伝えていたあの彼。イエスに洗礼を授けるという光栄に預かったあの彼。こんなことを言うなんて、一体どうしちゃったんだろう。投獄され、信仰がぐらついて、弱くなってしまったのかな...いや、でも何だか違和感がある...そんな一種の混乱を私たちは覚えるのではないのでしょうか。この箇所は、聖書の中でも難解と言われる箇所の一つです。そして、この箇所をバプテスマのヨハネの信仰がぐらついている、と説明する人もいます。しかし、そうではありません。というのも、このルカの福音書の著者であるルカが、バプテスマのヨハネについて描くのは、先ほども話したように、神のことばの前に誠実に生きるためにいのちをかけ、権力に対してすら忖度しないそんなまっすぐな人物であるからです。そして、ルカの福音書の続編である使徒の働き 13:23-25 でバプテスマのヨハネのことをこのように記しています。

神は約束にしたがって、このダビデの子孫から、イスラエルに救い主イエスを送ってくださいました。この方が来られる前に、ヨハネがイスラエルのすべての民に、悔い改めのバプテスマをあらかじめ宣べ伝えました。ヨハネは、その生涯を終えようとしたとき、こう言いました。『あなたがたは、私をだれだと思っているのですか。私はその方ではありません。見なさい。その方は私の後から来られます。私には、その方の足の履き物のひもを解く値打ちもありません。』

ルカが記すように、彼は生涯にわたって、イエスを証言することにおいて一貫している。決して揺らぐことはなかった。それは、ルカの福音書でも、使徒の働きでも同じ。ですから、この「おいでになるはずの方は、あなたですか。それとも、ほかの方を待つべきでしょうか」というヨハネからの言づけは、このイエスは本当に私が待っていた方なのだろうか、という疑問や不安からくることばではないことは明らかです。

それでは、ヨハネのこの発言は何なのか。それは、信仰告白です。「おいでになるはずの方は、あなたですか。それとも、ほかの方を待つべきでしょうか」。これは、私の待ち望んでいた、来たるべき方は、あなたですか、それとも他の方を待つべきですか、いや、そんなはずはありません、このように理解できるわけです。榎原康夫先生はこのように訳されています。

あなたこそ来るべき方です。そうでなくて、わたしたちは他の者を待っているのでしょうか。

この訳はまさにこれまでのヨハネの生き様と合致します。母エリサベツのお腹の中にいたときにイエスと出会い喜び躍るその時から、あなたこそ私が待ち望んでいた来たるべき方だ、という信仰告白であるわけです。この信仰告白を伝えるようにとヨハネの弟子は頼まれたわけです。そして、21-23 節。

2. 貧しい者たちに福音が伝えられている

ちょうどそのころ、イエスは病氣や苦しみや悪霊に悩む多くの人たちを癒やし、また目の見えない多くの人たちを見えるようにしておられた。イエスは彼らにこう答えられた。「あなたがたは行って、自分たちが見たり聞いたりしたことをヨハネに伝えなさい。目の見えない者たちが見、足の不自由な者たちが歩き、ツアラアトに冒された者たちがきよめられ、耳の聞こえない者たちが聞き、死人たちが生き返り、貧しい者たちに福音が伝えられています。だれでも、わたしにつまずかない者は幸いです。」

イエスはちょうどそのころ、「病氣や苦しみや悪霊に悩む多くの人たちを癒やし、また目の見えない多くの人たちを見えるようにしておられ」ました。そして、ヨハネの伝言を伝えにきた弟子たちに「自分たちが見たり聞いたりしたことをヨハネに伝えなさい」というわけです。その際に六つのリスト、つまり、「目の見えない者たち」が見えるようになり、「足の不自由な者たち」が歩くようになり、「ツアラアトに冒された者たち」がきよめられ、「耳の聞こえない者たち」が聞こえるようになり、「死人たち」が生き返り、「貧しい者たち」に福音が伝えられた。これらは、これまでのイエスの働きの中で行われたことがほとんどです。ルカの福音書では唯一、「耳の聞こえない人」が聞こえるようになる、という癒やしは描かれていませんが、マルコの福音書7章などでその癒やしは行われています。

そしてこのイエスの語られた六つの事柄のほとんど、ツアラアトの癒やし以外は、旧約聖書のおける預言の成就です。イザヤ書にその預言が記されています。そしてこのイエスの

語られた六つの事柄のほとんど、ツァラアトの癒やし以外は、旧約聖書における預言の成就です。まず、イザヤ 26:19。

あなたの死人は生き返り、私の屍は、よみがえります。覚めよ、喜び歌え。土のちりの中にとどまる者よ。まことに、あなたの露は光の露。地は死者の霊を生き返らせます。

死人の生き返りについて記されています。次にイザヤ 29:18-19。

その日、耳の聞こえない人が、書物のことばを聞き、目の見えない人の目が、暗黒と闇から物を見る。柔和な者は主によってますます喜び、貧しい者はイスラエルの聖なる方によって楽しむ。

耳の聞こえない人が聞こえるようになること、目の見えない人の目が見えるようになることが預言されています。次にイザヤ 35:5-6。

そのとき、目の見えない者の目は開かれ、耳の聞こえない者の耳は開けられる。そのとき、足の萎えた者は鹿のように飛び跳ね、口のきけない者の舌は喜び歌う。荒野に水が湧き出し、荒れ地に川が流れるからだ。

耳と目が開かれること、そして足が不自由な者が飛び跳ねることが語られます。そして、最後にイザヤ 61:1-2。

神である主の霊がわたしの上にある。貧しい人に良い知らせを伝えるため、心の傷ついた者を癒やすため、主はわたしに油を注ぎ、わたしを遣わされた。捕らわれ人には解放を、囚人には釈放を告げ、主の恵みの年、われらの神の復讐の日を告げ、すべての嘆き悲しむ者を慰めるために。

ここでは、貧しい人に良い知らせ、福音が伝えられることが預言されます。つまり、これまで出てきた、目の見えない者、足の不自由な者、ツァラアトに冒された者、耳の聞こえない者、死人たち、これらの人々をまとめてイエスは「貧しい人」と呼び、彼らに福音が伝えられていくのだ、と語ります。そして、23 節でこう言われます。

だれでも、わたしにつまずかない者は幸いです

結論 福音に生きる者へ

この「つまずき」とは何でしょうか。ここで言われる「つまずき」とは、イエスの語ることば、聖書のことばを受け入れないこと、つまり福音を信じないことや、イエスを信頼しないことを指します。これは元々イエスを信じていない人がイエスを信じないことだけではなくて、信じていると思っていた人が信仰を捨ててしまうことも含まれるわけです。ですから、ここでイエスが言われていることは、だれでも、どんな人でも、「貧しい人」に福音を伝える私を「知って」もなお、イエスは来るべき救い主だ、と信じ続ける者は幸いだ、と言っているわけです。そしてそれは、投獄されているヨハネに向けて、「わたしにつまづかない、ヨハネ、あなたは幸いだ」とイエスが言ってくださっている。

バプテスマのヨハネもまたイエスの福音が伝えられる「貧しい人」であったのだと思わされます。「おいでになるはずの方」と自らが生まれる前から待ち望み、自分を低くし救い主のために自らの人生をささげたヨハネ。まさに彼はイエスの福音に生きる人生を歩みました。

それでは私たちはどうか。イエスの「貧しい人」であるでしょうか。私たちもまた、イエスの福音につまづくことなく、イエスの歩まれた足跡辿って生きていきたい。そして、再び来られる主を私の中に待ち望み続けたい。イエスの福音はイエス・キリストを受け入れるすべての人に与えられる救いという名のプレゼントです。だからこそ、キリストに信頼して歩む道のみことばによって日々照らされながら、私たちは「あなたこそ来たるべき方です」と告白し続けていきたい。そして、そのような告白を共にし続けていける、軽井沢キリスト教会に連なる主にあるお一人おひとりを感謝しつつ、今週もまた歩いていきましょう。